

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

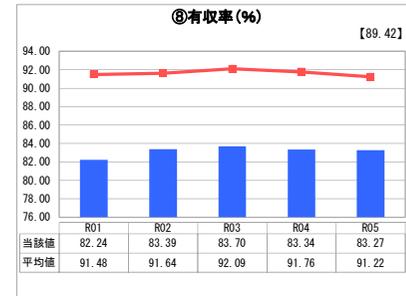
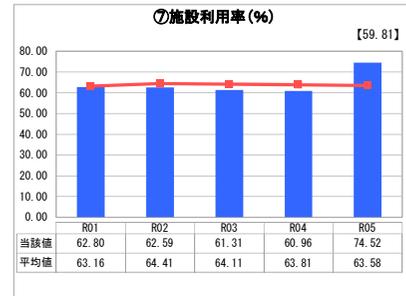
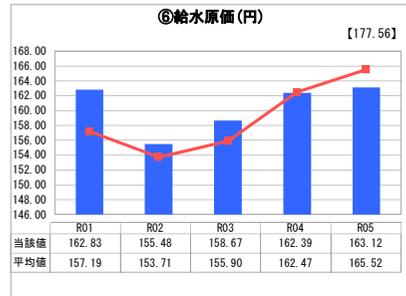
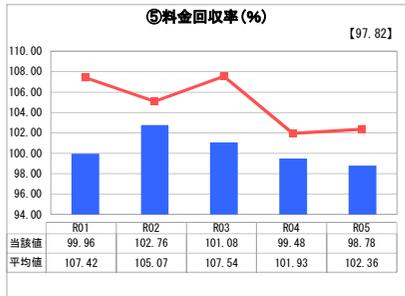
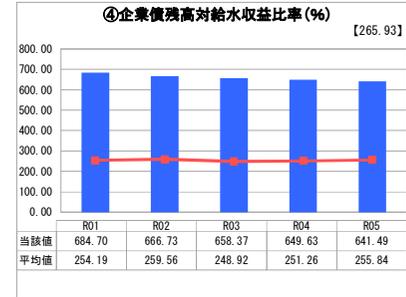
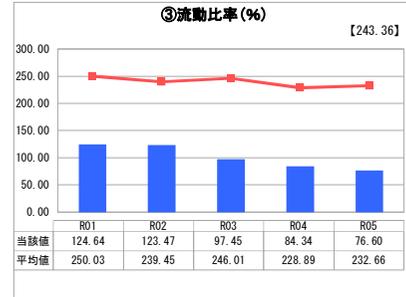
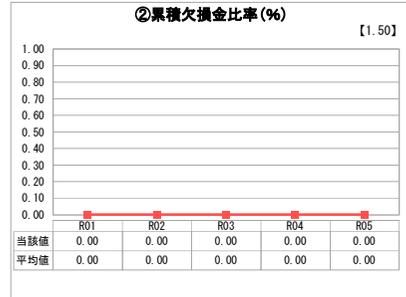
和歌山県 和歌山市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	54.38	96.12	2,530	

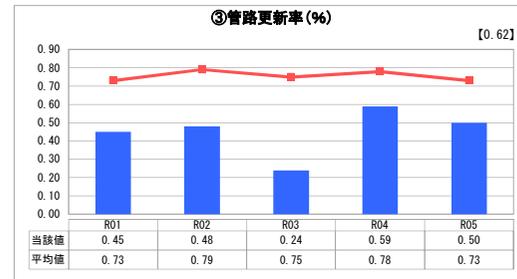
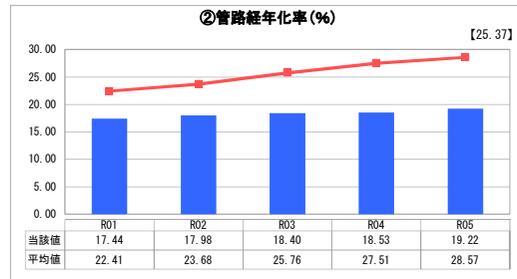
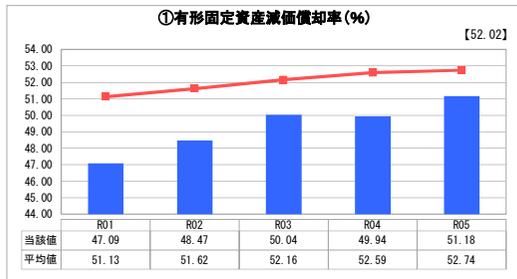
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
356,472	208.85	1,706.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
341,055	208.85	1,633.01

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率(%)は、人件費等の経費削減を図ることにより、経常収支は、黒字で推移している。しかし、水需要の減少に伴い、収益の減少が続いているため経常収支比率(%)は減少傾向にある。

②累積欠損金比率(%)は、各年度0.00%で推移している。

③流動比率(%)は、令和2年度までは平均値と比べ低い水準でありながらも100%以上であったが、令和3年度は、大規模漏水の影響により現金が減少し100%未満となり、令和4年度も同様に影響を受け、減少している。令和5年度は、料金回収率の低下に伴い、現金が減少した。

④企業債残高対給水収益比率(%)は、平均値と比べかなり高い推移を示している。これは、これまで行った施設整備の財源に、企業債を多く用いたためである。

⑤料金回収率(%)及び⑥給水原価(円)の推移についても、①の要因によるものである。

⑦施設利用率(%)は、令和4年度までは減少傾向にあったが、令和5年度は増加している。これは、施設の統廃合に伴う配水能力の見直しによるものである。

⑧有収率(%)は、漏水調査や管路の命題替えなど各種取り組みを行っているが、平均値と比較すると依然として75ポイント低い状況にある。今後も、経年化管路の更新にも重点を置き、漏水対策に取り組む必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率(%)は、平均値より低い水準で推移しているが、老朽化した施設を計画的に更新する必要がある。

②管路経年化率(%)は、管路の更新が耐用年数にあわせて行っていない状況にあり、平均値同様、増加傾向にある。

③管路更新率(%)は、基幹浄水場の整備にあわせて管路に対する投資規模を見直しているため、更新量が変動している。今後は、管路更新にも目標を持って取り組む計画である。

### 全体総括

水道料金収入が減少を続ける中、施設の更新時期を迎え、経営環境はますます厳しくなっている。今後の施設整備は、将来の水需要に沿った適正規模の投資を行い、生産性を高めるうえでも合理的・効率的に行う必要がある。同時に、これまでの企業債に依存した財政運営から、企業債以外の特定財源の確保に努め、経営基盤の強化を図る必要がある。